

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 特別選考入学試験問題 【小論文】【国語教育専攻】

解答上の注意

- 一. 解答用紙の所定欄に、受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名を必ず記入すること。
- 二. 無解答の解答用紙でも提出すること。
- 三. 問題用紙は「二枚」（本ページ含む）、解答用紙は「一枚」です。必ず枚数を確認すること。

以上

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科 修士課程 特別選考入学試験問題 【小論文】 【国語教育専攻】

問題

次に示すのは『月刊国語教育研究』（二〇一七年五月）に収録された、「教師の経験知を授業構想力につなぐ方法」と題する塚田泰彦氏の論文の一節（一部省略した箇所がある）である。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

改めて授業構想の本質

に立ち返り、よりよい授業を一から構想しようとする、まず教科書教材だけに囚われることからは離れて、新たに教材開発を含めた次の段階へと向かうことになる。それが自らの授業概念を拡大することにもつながる。その場合には、教育の根本概念に立ち返りつつ、なによりもまず自由で豊かな地平から出発することが期待される。

この点で、倉澤栄吉が提唱した「脱教科書」の思想は、それまでの伝統的な教科書教材中心の読解指導を相対化して、真に学習者に必要な学びとは何かを追求したものである。その眼目は「教材」から「学習者」への力点の移動による授業構想力の改編にあったと言っている。

「脱教科書」というのは教科書を十分扱って、教科書中心主義をやって、その次にくるべき授業ということであります。

だから、教科書の教材を扱っても、その後にくることで全体を包めば、これは脱教科書になるわけです。むしろ教科書の教材というものを包みながら、もっと開放的に教科書教材を様々な教材と絡めながら、その教材のもっている主旨をうまくいかしていけば、自然にこの教材は生きてきます。」（倉澤、一九七四、一〇二頁）広瀬節夫によれば、「つまり、倉澤栄吉氏の提唱される、いわゆる「脱教科書」というのは、固定的で限定的な「教科書教材」の価値や機能を見極めて、その位置づけを考えながら、弾力的で発展的な教材を新たに加えることによって、単元を再組織するということである。」（広瀬、二〇一六、七七頁）そして、倉澤のこの提案は、情報化社会の到来を前に、多様な情報テキストを真に主体的に消化しつつ生産的に学び続ける学習者をどう育てるかという時代の要請に応えようとしたものである。単なる読解教材という狭い枠組みを越えて、新しい単元構想の原理的提案として、「倉澤栄吉氏は、課題解決のために、どのように情報操作するかを目指した単元の組織化を試みられた。」（広瀬、二〇一六、七六頁）

こうして教科書から離れ、情報洪水のなかに一歩踏み込んで、情報化社会が求める新しい授業を構想することが盛んに試みられるようになる。時代はさらに高度情報化社会へと進むからである。そこでは、子どもの言語生活の向上を目指して、自由で豊かな地平からどう出発するかが引き続き問われることになる。安居總子はこう述べている。

「授業をつくるとは、混沌の状態から、何かがひらめいて、そこから、立てた（既に考えていた）指導目標を実現するために、学習材を準備し、そこから促される学習活動（言語活動）でことばの力がつくよう計画することである。混沌の状態からというが、混沌の状態とは何かがつくれる要素をたくさん持つてはいるが何がつくれるのかはつき

りしていない、方向づけも形もできていない状況である。

あるのは指導者の授業をした経験から導き出されてくるものも要素と、意識して心にまとめたことのメモや情報である。これが、学習者の状況——一人ひとりの興味・関心・問題意識、彼らを取り巻く社会の状況など（中略）から引き起こされて、授業の核のようなものができてくる。その核となるものは人間として教育すべきこと（考え合い話し合う価値のあるもの）であったり、教えるべき言語や言語活動、言語文化であったりする。」（安居、一九九六、一五〇—一五一頁）安居は、中学校での授業体験をふまえて、教師の経験知を学習者の状況へとつなぐ筋道を明らかにし、具体的に明示的な授業構想の観点と手順を整理している。（詳しくは同書を参照されたい。）なお、ここに言う「学習材」とは、「学習者に、学習を成立させ、国語の力をつけ、国語科の目標を達成するために準備されるもの・ことのすべてをいう。教科の構造上、学習内容を指すこともあり、学習のための素材、教材を指すこともある。」（日本国語教育学会編、二〇〇一、九二頁、安居聰子、稿）

今日では、教材（化）から学習材（化）へというこの考え方が共有され、学習者中心の立場で授業の三要素の力学の転換を図るための原理が追求されている。

「学習者一人ひとりが興味・関心・意欲をもって、教材・学習材を媒介とした学習営為に取り組むときに、初めて、その教材（単元）に学習価値が生じる。その教材（単元）にふさわしい学習指導目標も、選び抜かれた学習課題も、それを解決していく学習方法も、さらには、学習指導の評価も、すべて学習価値を踏まえて導き出されるといってよい。学習者一人ひとりが主体的に取り組む、価値ある学習を構想しようとする、一斉授業形態による同一教材、同一方法の授業から脱皮して、学習指導目標の個別化・個性化、教材の複数化・個別化、学習指導過程の複線化を図らざるをえなくなる。」（日本国語教育学会編、二〇〇一、四七頁、世羅博昭、稿）

この展望に立つて、教師は、国語科に固有の教育内容の習得状況と、授業での学習者の具体的な反応を一つ一つ予想しつつ、よりよい「単元学習」の授業を構想することになる。

【引用参考文献】

- 倉澤栄吉『国語教育講義』新光閣書店、一九七四年
興水実・興水実『国語科の基礎・基本 第二巻 国語科授業の基礎・基本』明治図書、一九八四年
塚田泰彦『学習者の「意図」を読む』月刊国語教育研究、第五〇八号、二〇一四年、一頁
日本国語教育学会編『国語教育辞典』朝倉書店、二〇〇一年
広瀬節夫『国語科授業論考 二巻』溪水社、二〇一六年
安居總子『授業づくりの構造』大修館書店、一九九六年

問一 この文章で筆者は、「授業構想」に関してどのようなことが重要だと述べているのか、分かりやすく説明しなさい。

問二 この文章の末尾には「よりよい『単元学習』の授業を構想することになる」と述べられているが、筆者の考え方を参考にして、国語科における「よりよい『単元学習』の授業」の構想について、校種・学年を明示したうえで、要点を絞って論述しなさい。論述に際しては単元名、単元の目標、使用する教材、主な学習活動などを明らかにしてください。また、授業構想に際して特に参考になった先行研究にも言及してください。

《注意》 解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。解答用紙の「問題番号」の欄に「問題」と記入したうえで、「問一」と記入してその解答を書き、続けて「問二」についても同様に記入してください。解答用紙は裏面も使用できます。